



KEYAKI IKE

Words by Issey Yumiba

ケヤキは子供だね。見た事ない環境で興じ、常に自分の世界に入ってる。あのヤンチャな頭で何を考えてるかは誰も当てられないんだ。でも少しずつ彼を分かるようになってきた。毎日ブリトー、お菓子かドーナツしか食わない。レジャスポットの上で踊ったり、ブラインドの動きをじっと見てたり、全ての振る舞いが不思議だったんだ。そして、ダニエル・エスピノーザに、「テリヤキ」ってあだ名を付けられたんだ。理由は、名前を聞いたら日本料理か思い浮かばなくてケヤキの本名を忘れたらしい。差別だろうが、ケヤキは笑いながら新しいあだ名を受け入れたよ。俺もテリヤキの未来を楽しみにしている。このUSのFilmbotツアーはただの始まりだから。ずっと笑ったりしてクルーと仲良く出来て本当によかったんだ。空港で降りた時に泣きそうになった顔を見るだけで俺も悲しかった。その後に話したら英語を勉強してニューパートを作るという新しいゴールが出来たって彼に言われた。スケボーを通して成長していくのは本当に楽しみだよ。



日米合同、初のFilmbotツアーを成功させるために、Big Wing DistributionのホームーたちがFilmbotの秘密兵器、池ケヤキと池田幸太をアメリカへ送りこんだ。渋滞や煙霧の国、ロサンゼルスを超え、一路はアメリカ合衆国南西部に位置する多くの良質なパークが揃うアリゾナ州のフェニックスへ！彼らを迎えるのは、弓場イツセイ、デュレック・フクハラ、トレバー・マクラング、更に幸太のチームメイトでもありホームーでもあるClichéのダニエル・エスピノーザがゲストとして特別参加。文化や年齢や出身地、言葉の壁まで超えた、FILMBOT TERIYAKI BOYZ アリゾナ・トリップの様子をとくにご覧あれ。

TERIYAKI BOYZ

FILMBOT in AZ

Word by Mikendo & Kota Ikeda & Issey Yumiba. Photo By Mikendo.

TREVOR MCCLUNG

Words by Kota Ikeda

Mcclungブラザーをご存知だろうか？ 去年BerricsのRecruitというコーナーにも登場したLAの3兄弟なのだが、この3兄弟、3人とも超絶的なスキルを持っていて今アメリカでもかなり注目されているスケーターたちだ。その中でもPlan Bに所属している次男のトレバーが今回参加した。どんなスポットだろうがひたすら滑りまくっていたトレバーだが、さすがはアメリカチームの最年少、コンビニに立ち寄るやいなやお菓子コーナーへまっしぐら！ ビーフジャーキーを常買いあさっていた気がする（笑）。その反面、常に温厚でしっかりしているイメージだった。そんな彼はケヤキをもの凄く気に入ったのか常にケヤキをムービーで撮りながら爆笑していた。恐らくケヤキと一番コミュニケーションをとれていたであろうアメリカ人（笑）。トレバー、僕がWalmart（アメリカにある超巨大スーパーマーケット）で迷子になりかけた時、君が向かいから笑顔で現れた時の安心感は忘れないよ（笑）。



DEREK FUKUHARA

Words by Kota Ikeda

デュレックは今回のツアー参加ライダーでは最年長、クルーのアニキ的存在でファーストスポットにも関わらず写真のノーリーヒールノーズスライドをレールを切断しながらメイク！ 名前からわかるようにデュレックもアメリカと日本人のハーフ、数年前411vmで彼が特集された時、思わず注目してしまった人も多いのでは？ 日本語は喋れないものの英語が苦手な僕やケヤキに気を使って簡単な英語を選んで積極的に話しかけてくれたり日本人の血が入っている事を改めて知れた。スケート以外はフィルムカメラをもったりギターを引いたり趣味を沢山もっているのも印象に残った。日本にはまだ訪れた事がなく日本を噂を僕に何度も確認していた（笑）。 早く日本に行きたいと待ちきれないようだった。



Trevor Mcclung, Ollie into bank.



Derek Fukuhara, Nollie heel nose-slide.



Daniel Espinoza, Backside smithgrind.



KOTA IKEDA

Words by Issey Yumiba

幸太はコココーラ、メキシコ料理とコーヒーにハマったんだよね。LAXに到着したらすぐベンティのアイスコーヒーを買って、そして帰国までにモカのダブルショットを飲みまくった。スタバのコップを捨てないで次に行く時に持って行けば50セントでお代わりがもらえるんだ。アメリカにいる間、コーヒーで10ドルしか費やしてないだろう！ 幸太はスケート界の中で一番カッコいいスタイルを持っていると思う。あの弾きや回し方は幸太しか出来ないだろうね。独特だよな。100回ぐらいキックフリップをやらせてごめんね。でも、俺の友達の中で一番優しくて謙虚なのは絶対に幸太だよ。Filmbotクルーに入って常に彼と滑れるのは光栄だよ。幸太、また今度！



DANIEL ESPINOZA

Word by Kota Ikeda

日本でもおなじみダニエル・エスピノーザ。彼はLAからアリゾナの道中にあるフォンタナに住んでいて、僕やイッセイ、他のFilmbotクルーとも親交が深いため今回ゲストとして参加が決定。一言で言うとうとうしようもない奴、長い道中眠りに入ると、すかさず、「頼むから寝ないでくれよ！ 暇なんだ、話し相手になってくれよ〜」と泣きついて起こしてくる（笑）。と思いきやスポットにつけばいきなりクルーから離れた所に腰掛け一人で考え事を始めたり。もう無茶苦茶だ。ケヤキをテリヤキと呼び出したりケヤキに気色の悪いお菓子を無理矢理食べさせたり一番ケヤキをイジってたのもダニエルだったね（笑）。早くまた日本においでよ、スーパーオートバックス連れてってやるからさ！

Issey Yumiba

Words by Kota Ikeda

Teriyaki Boys Tourのキーマンでもあるイッセイ、まず彼がいなかったらこのツアーは行われていないだろう。そして唯一英語と日本語どちらも完璧に喋れる頼れる男、誰かがケヤキに何かを言えば通訳するのも彼の仕事、スポットに行けばもちろん撮影をこなさなければならないのも彼の仕事、ご飯屋に入れば、僕とケヤキに質問攻めにされるのも彼の仕事（笑）。誰が何を言おうと今回一番忙しかったのは間違いなくイッセイ！でも彼は全てこなしていたよ、しかも楽しみながら。バンで移動中も自分の好きな曲がかかれば周りが疲れて寝ていようがハイブアップして歌いまくり踊り狂っていたのも彼、とにかく毎日パワー全開！そんなイッセイがみんな大好きでたまらない感じがした。もちろん僕もその一人だ。イッセイ、早くスタバに俺を連れて行ってモカダブルショットのオーダーの仕方を教えてくれ!!

Issey

Word by Kota Ikeda

ブランドが行うスケートトリップといえば、スケートパークにはデモ以外で立ち寄らずに朝早くからストリートに出て数多くの写真を撮るなど高いソルマを求められる、だが今回はみんな普段から一緒にスケートしたりプライベートで遊んだりする仲間がタイミングよく集まり少し遠出してスケートしようといったノリだった。ストレスになるプレッシャーもなく移動中もスケートもご飯を食べている時も常に気楽で楽しめた。毎日朝サンドイッチを食べて、お昼はファーストフード、夜はメキシカンフードに美味しいオリジナルコーヒージョップ。食べ物もかなり充実していた。なにより日本から来た僕とケヤキをファミリーのように迎え入れてくれた彼らに感謝だね。このツアーで得た知識とコネクションと絆はこれからのFilimbot、そして僕やケヤキにいい影響を及ぼすだろう！次はこのメンツでジャパンツアーをやりたいね!!

